

# K.I.S.S. 定例会 第5回目のご案内

## — 会員 連絡事項 —

- ② 受付に会員名簿を用意しますのでチェックしてください。
- ③ 服装はカジュアルな格好で結構です
- ④ 参加・不参加のご返事を **9月18日** までにFAXでお知らせ下さい。

## — 定例会案内 —

18:30 長澤 成明

19:00 六人部 慶彦 「審美修復治療においてチェアサイドすべきこととは・・・」

◆ 日 程 2010年 10月 2日 (土)

◆ 時 間 土曜日 PM18:30 ~ PM 21:00

◆ 場 所 大阪大学中之島センター **10F 佐治敬三メモリアルホール**  
OR (当日確認してください)

**7F セミナー室**

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06-6444-2100

## — オブザーバーについて —

- ◆ オブザーバー参加費はDr5,000円 その他2,000円 です。当日受付にて徴収いたします
- ◆ オブザーバー参加 (会員以外の方) は当日部屋の前で受け付けしております。  
多数のご参加おまちしております。

----- ✂ -----  
定例会に

・ 参加する

・ 参加しない

懇親会に

・ 参加する

・ 参加しない

懇親会費5,000円

ご氏名

TEL

ご連絡先

FAX

FAX送付先 0774-75-2185



## K.I.S.S.第5回定例会

講師 六人部 慶彦 先生

演題 審美修復治療においてチェアサイドですべきこととは・・・  
—Seeing is believing—

略歴 1961年 京都府生まれ  
1986年 朝日大学歯学部卒業  
1986年 大阪大学歯学部歯科補綴学第一講座入局  
1990年 大阪大学歯学部歯科補綴学第一講座医員  
1998年 大阪大学歯学部附属病院助手  
2004年 大阪大学にて（歯学）博士の学位授与  
2007年 大阪市北区にて開業

### 所属団体

大阪大学歯学部補綴学分野非常勤講師

日本歯科審美学会認定医、評議員

日本補綴歯科学会専門医

審美修復治療においてチェアサイドですべきこととは・・・

—Seeing is believing—

患者の顎口腔の審美性に対する要求が高まり、前歯部のみならず臼歯部においても天然歯に近似した形態と色調を持つ審美修復処置が求められるようになってきた。近年、色調および光透過性をより一層天然歯に近づけた、高強度のオールセラミッククラウンがその修復材料として臨床応用されるようになってきている。最近のオールセラミックシステムとして、CAD/CAMを用いたジルコニアが主流となりつつあり、世界でも100を超えるシステムが登場し審美修復治療発展の一助となっている。ジルコニアは、高い曲げ強度と破壊靱性値を有しており、強度的な信頼性が高まることにより、適応範囲も格段に広がりを見せている。健康的で美しい口腔、笑顔を回復し、予知性をもって維持させるためには、一種の職人である我々歯科医師、歯科技工士双方が熟練された技術を駆使して医療に携わり、明確に情報を伝達し合うことが重要である。ただ優秀な歯科技工士が製作する美しいセラミック修復物にすべてを委ねているだけでは、審美修復治療における長期的に良好な予後は期待できない。

本講演会では、オールセラミッククラウンを臨床応用し、長期的な予後を安定させるためにチェアサイドにおける歯周組織に調和したプロビジョナルレストレーションの重要性、左右のgingival levelの対称性を目的に行うプロビジョナルレストレーションsubgingival contourの調整法、クラウン形態（隣接面歯頸部の歯肉縁下・歯肉縁上付近の形態）、CAD/CAMにより作製されるジルコニアフレームを緊密に支台歯と適合させるための従来とは少し異なった支台歯形成デザインおよびフィニッシュラインの設定位置などについて言及し、審美修復治療を成功させるために歯科医師、歯科技工士が果たすべき役割について、臨床例を中心に私見を述べたい。